



最近の**薬物乱用問題**： 大麻・危険ドラッグの現状



船田正彦



湘南医療大学
薬理学研究室

薬学部
教授



masahiko.funada@sums.ac.jp

最近の薬物乱用問題： 大麻・危険ドラッグの現状

大麻乱用問題

(1) 国内の大麻乱用状況

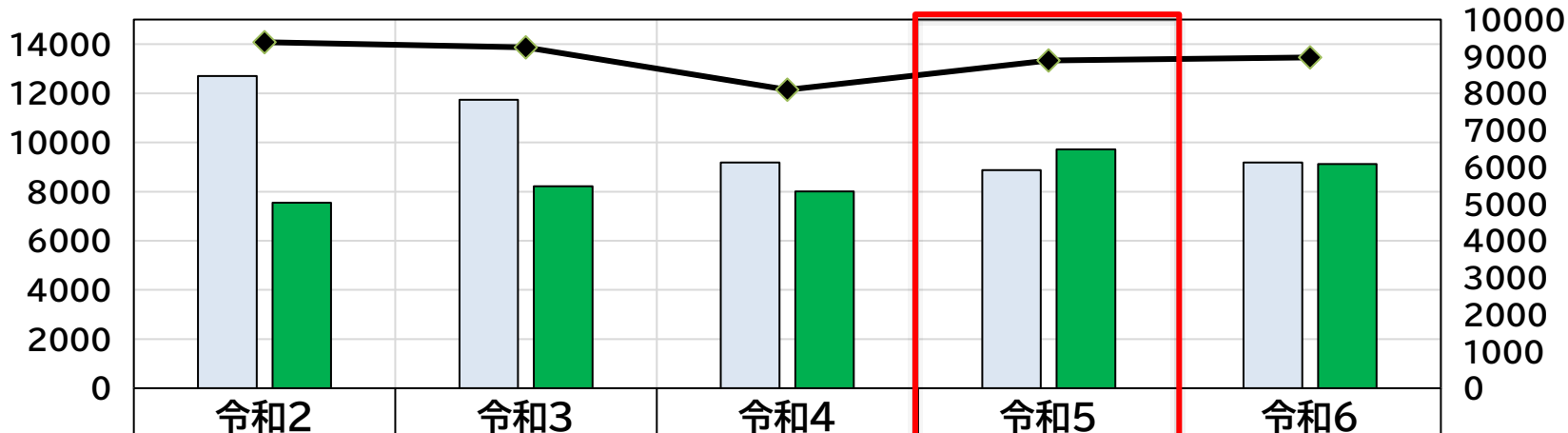
- 若年層への大麻乱用防止の重要性

(2) 大麻合法化とは？ 有害作用と医療応用

- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)と
カンナビジオール(CBD)

- 有害作用: ヒトにおける大麻(THC)の作用
- 医療応用: 米国における**CBD製剤: Epidiolex[®]の現状**
- 合法化とは?: 米国における合法化の実情と社会問題
- 大麻の危険性が増大?
- 大麻取締法再考の概要(改正大麻取締法)

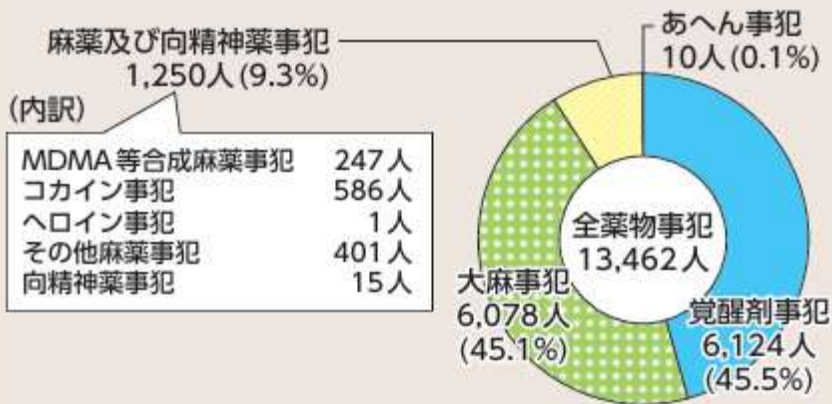
各種薬物事犯の検挙状況の推移



覚醒剤事犯	8471	7824	6124	5914	6124
大麻事犯	5034	5482	5342	6482	6078
薬物事犯総数	14079	13862	12142	13330	13462

□ 覚醒剤事犯 ■ 大麻事犯 ◆ 薬物事犯総数

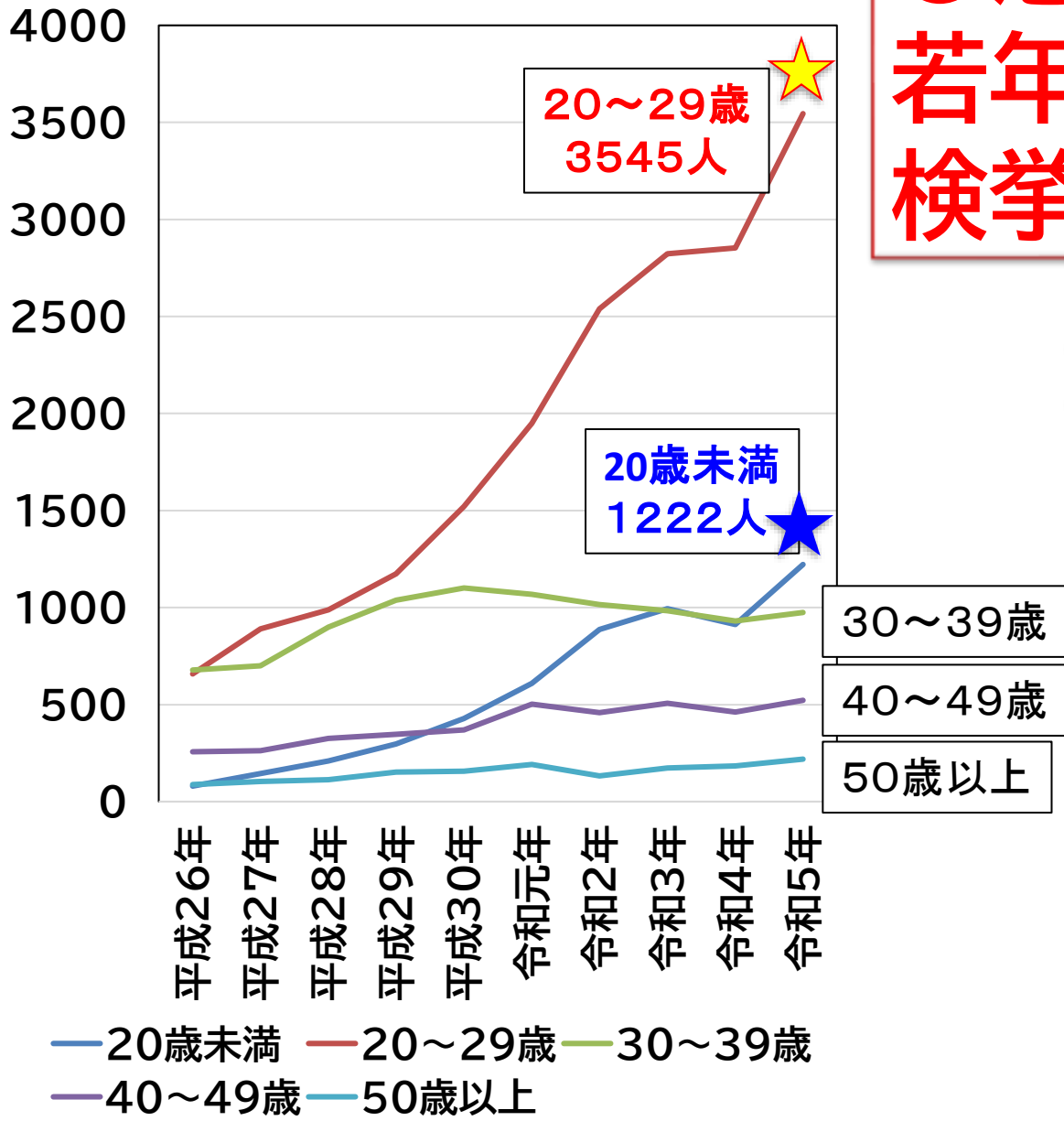
図表4-19 薬物事犯の検挙人員（令和6年）



令和5(2023)年に大麻事犯での検挙者数が初めて覚醒剤関連の検挙者数を上回った。引き続き高い水準である。

令和6年版 犯罪白書

大麻取締法違反 検挙人員の推移 (年齢層別)



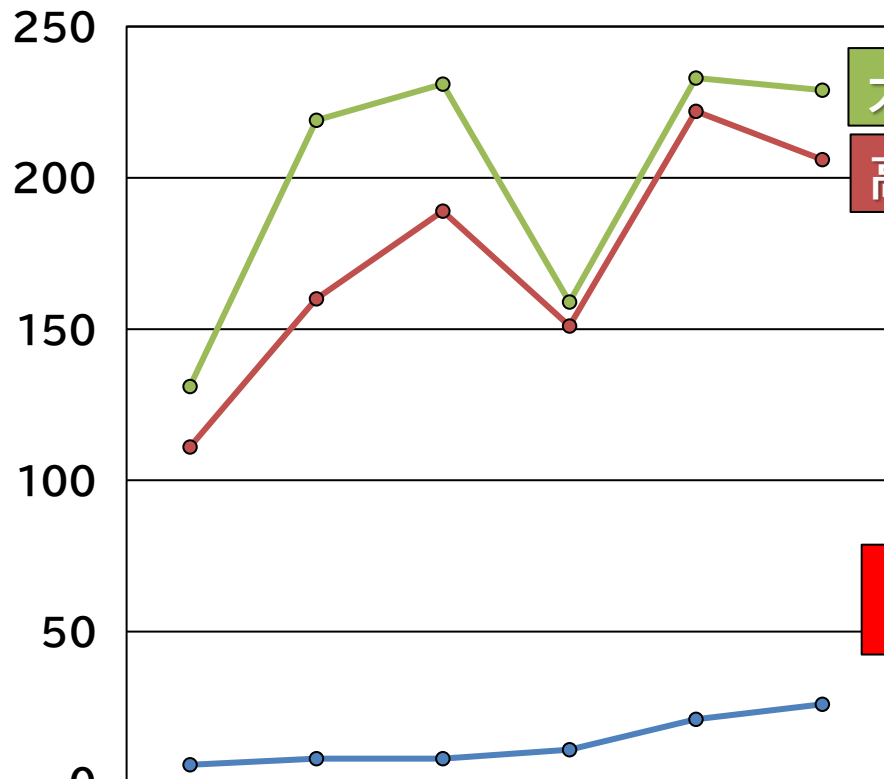
●危機的状況
若年層、青少年の
検挙者数が増加！

年齢層	(人数)
★ 20~29歳	3545
★ 20歳未満	1222
30~39歳	974
40~49歳	522
50歳以上	219

最も多い年齢層は、**20歳代**、次いで**20歳未満**となっており、特にこの年齢層の**増加が顕著**です。

大麻事犯 20歳未満 (中・高・大学生の構成)

●中学生 ●高校生 ●大学生



大学生:229人

高校生:206人

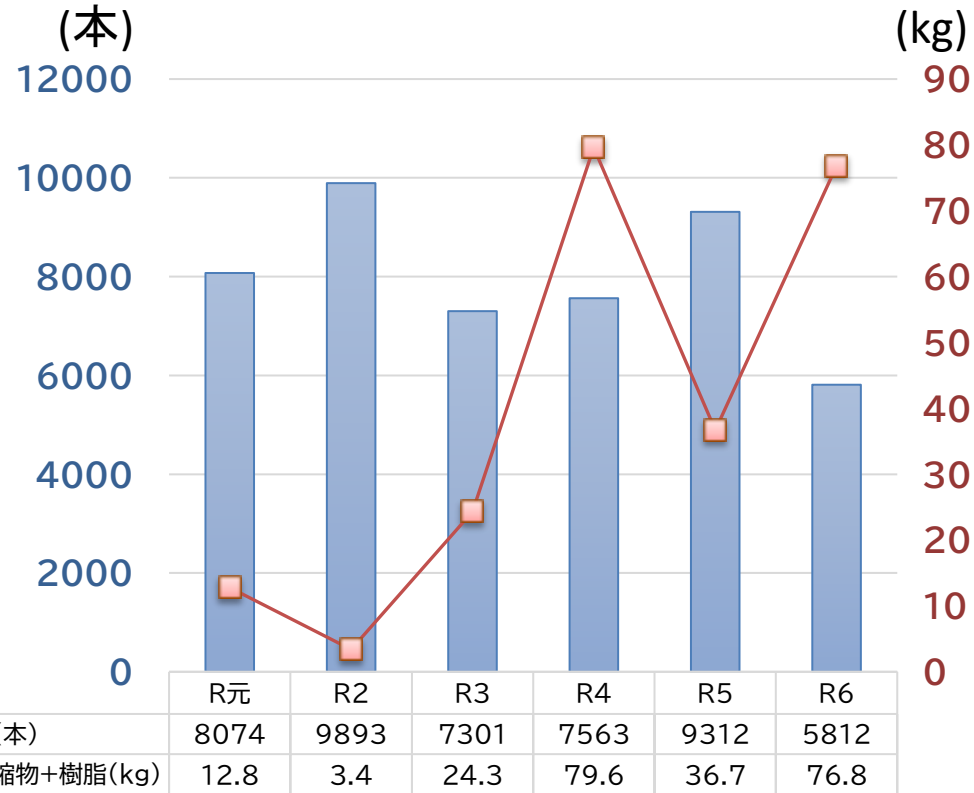
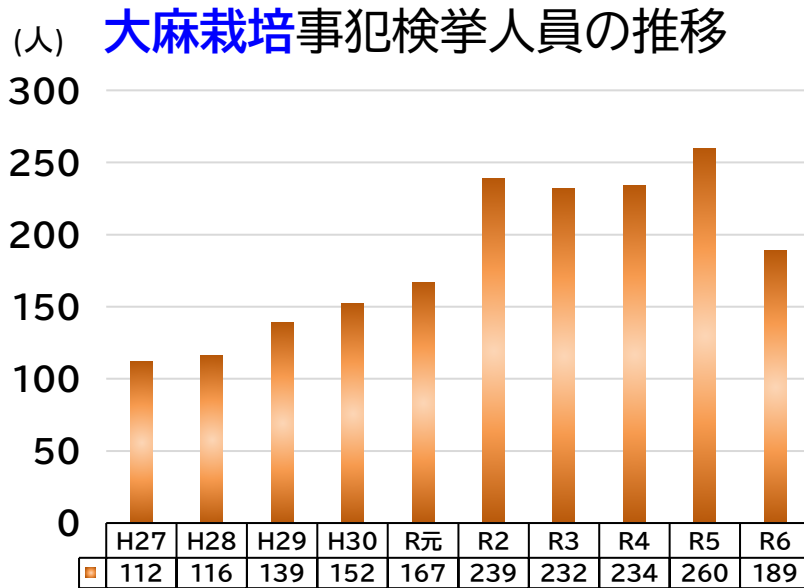
中学生:26人

中学生の増加が進行
高校生、大学生は200人
前後で推移

学生における大麻事犯増加
→薬物乱用防止教室や啓発
の重要性

	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
●中学生	6	8	8	11	21	26
●高校生	111	160	189	151	222	206
●大学生	131	219	231	159	233	229

大麻草と濃縮物の押収量



■ 大麻草(本) ■ 大麻濃縮物+樹脂(kg)

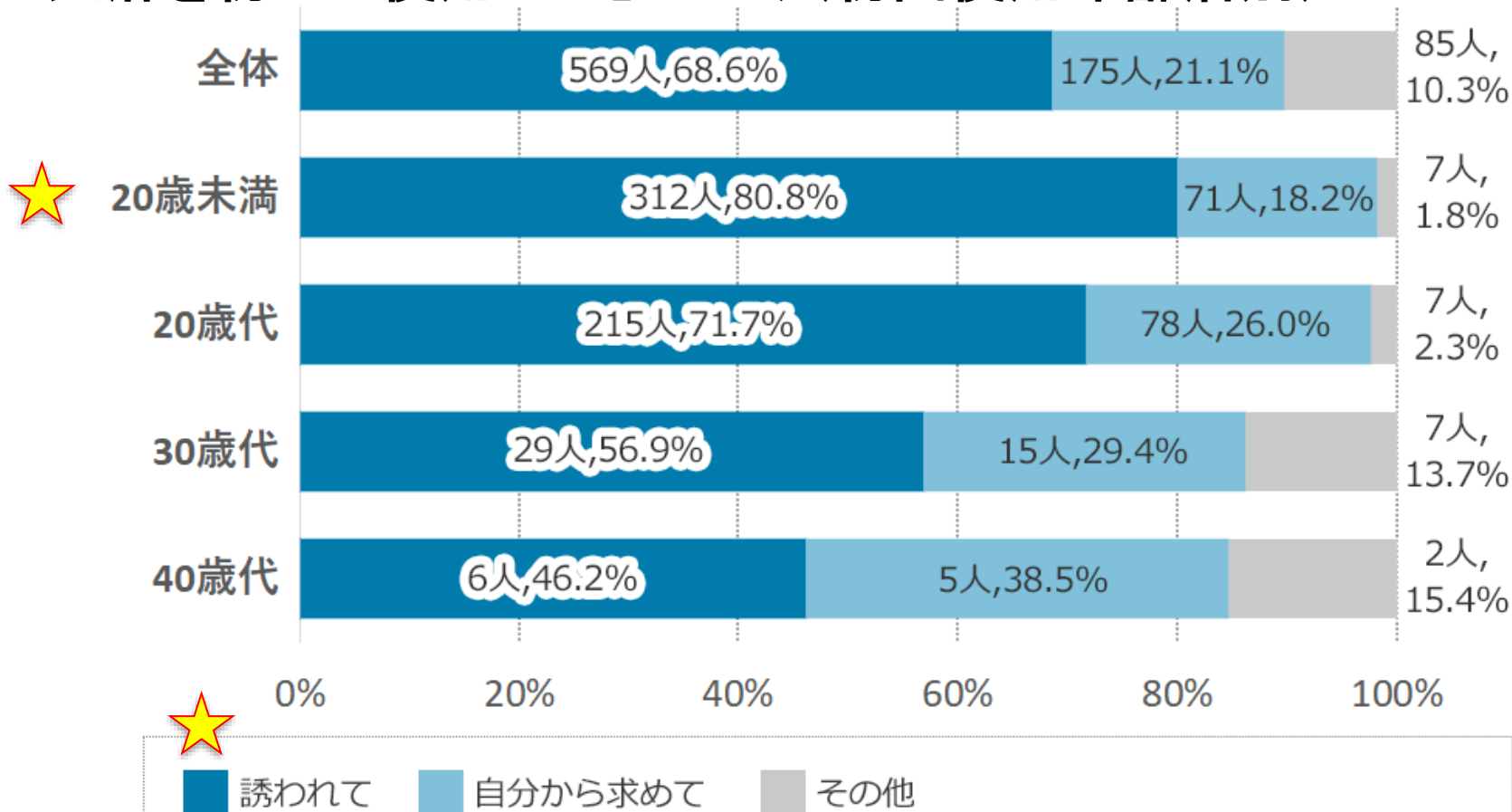
- **大麻草**の押収量は6000~10000本で推移
- **大麻の濃縮物+樹脂**については、増加傾向
注視が必要(電子タバコの広がりに注意)

・初めて大麻を使用したきっかけ

●誘われて

「誘われて」と回答したのは、20歳未満では80.0%、20歳代では71.7%。
初めて使用した年齢が若いほど、**誘われて使用**する割合が高い。

大麻を初めて使用したきっかけ(初回使用年齢層別)

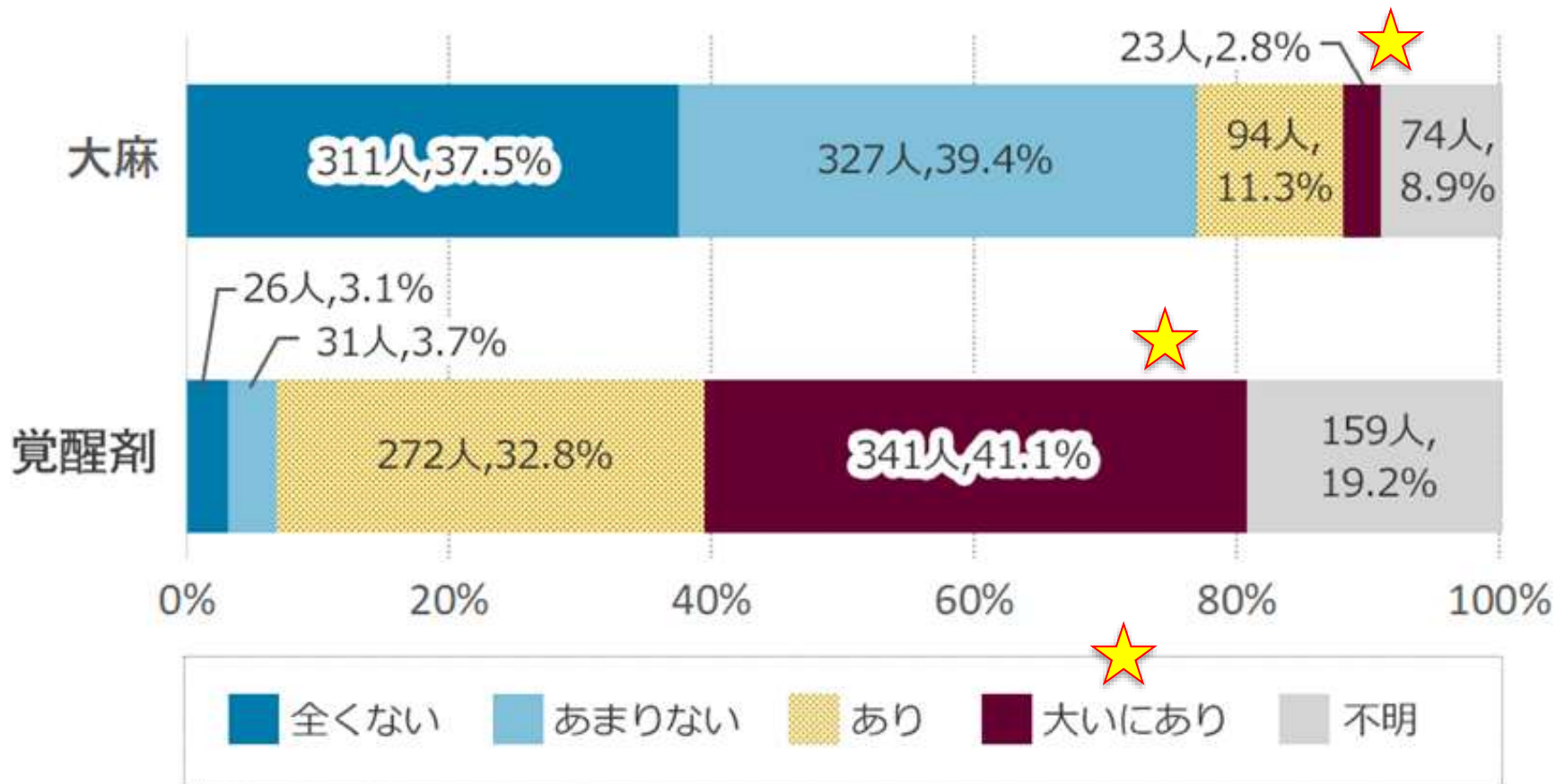


★大麻の危険性＝認識が低い！

・大麻に対する有害性の認識

「ない(全くない、あまりない)」と回答した者が77.0%。覚醒剤に対する危険(有害)性の認識と比較すると、著しく低くなっている。

大麻及び覚醒剤に対する危険(有害)性の認識の比較



大麻の現状と課題

近年、大麻に関連して検挙された人数が急増しています。大麻による検挙者数は、**30歳未満の若年層**を中心に平成26年(2014年)以降増加が続き、**令和3年**も5,482人と前年を上回り、**過去最多**となりました。

大麻事犯の人口10万人当たりの年代別検挙人員の推移をみると、最も多い年齢層は、**20歳代**、次いで**20歳未満**となっており、特にこの年齢層の**増加が顕著**。

★初めて大麻を使用したきっかけ

「**誘われて**」と回答したのは、20歳未満では80.0%、20歳代では71.7%。初めて使用した年齢が若いほど、**誘われて使用**する割合が高い。 (誘われても断る)

★ **20歳未満、20歳代**:「**好奇心・興味本位**」が最多で、次いで、「**その場の雰囲気**」の割合が高い。 (誘われても断る)

★大麻に対する有害性の認識

「**ない(全くない、あまりない)**」と回答した者が77.0%。覚醒剤に対する危険(有害)性の認識と比較すると、**著しく低くなっている**。

● **大麻の有害性を認識することが重要！**

最近の**薬物乱用問題**： 大麻・危険ドラッグの現状

大麻乱用問題

(1) 国内の大麻乱用状況

○若年層への大麻乱用防止の重要性

(2) 大麻合法化とは？ 有害作用と医療応用

○ Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)と
カンナビジオール(CBD)

○有害作用: ヒトにおける大麻(THC)の作用

○医療応用: 米国における**CBD製剤: Epidiolex®**の現状

○合法化とは?: 米国における合法化の実情と社会問題

○大麻の危険性が増大?

○大麻取締法再考の概要(改正大麻取締法)

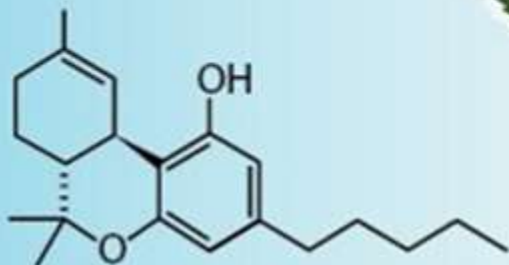
大麻含有成分の有害作用

- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)の作用
- カンナビジオール(CBD)の作用

大麻含有成分

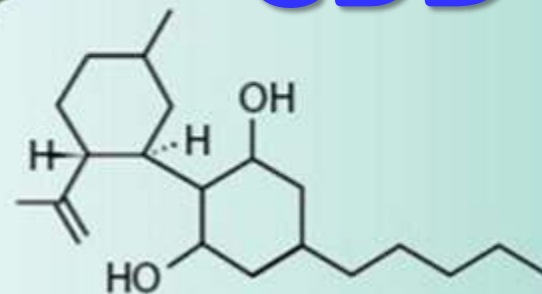
精神作用

THC



精神作用は
無し

CBD



- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)
- カンナビジオール(CBD)

ヒトにおける大麻(THC)の作用

●気分の変化¹⁾

Good Trip: **多幸福感**、リラックスした感覚

Bad Trip: **不安感**、恐怖感、パニック状態

●自覚、知覚の変容¹⁾

THC濃度が高い場合: **幻覚**、妄想

●運動機能^{1,2)}

運動協調性の障害、体のバランス異常、自動車操作への影響

●認知機能の変化³⁾

学習・記憶障害、判断力・注意力の低下

Δ⁹-THC(精神作用を示す成分)

効果発現

吸煙: 速やかな効果発現

食品: 30~1時間程度で効果発現

ヒトにおける大麻(THC)の長期使用

●薬物依存^{1,2)}

精神依存: 大麻使用者の9%程度^{1,2)}、**THC濃度が高くなると依存のリスクが増加⁵⁾**

: 渴望(9.9±6.3本/1日程度の使用-11.6±7.6年間)⁴⁾

身体依存(離脱症状): 睡眠障害、食欲低下、不安、易怒性

(9.9±6.3本/1日程度の使用:11.6±7.6年間)⁴⁾

●認知機能の変化¹⁻³⁾

学習・記憶障害、判断力・注意力の低下

(1) NIDA. 2020, May 27. Letter From the Director. Retrieved from <https://www.drugabuse.gov/publications/research-reports/marijuana/letter-director> on 2021, February 4

(2) Volkow ND, et al.. Adverse health effects of marijuana use. *N Engl J Med*. 2014 Jun 5;370(23):2219-2227. doi: 10.1056/NEJMra1402309.

(3) Broyd SJ, et al. Acute and Chronic Effects of Cannabinoids on Human Cognition-A Systematic Review. *Biol Psychiatry*. 2016 Apr 1;79(7):557-567. doi: 10.1016/j.biopsych.2015.12.002.

(4) Lee D et al. Cannabis withdrawal in chronic, frequent cannabis smokers during sustained abstinence within a closed residential environment. *Am J Addict*. 2014 May-Jun;23(3):234-242. doi: 10.1111/j.1521-0391.2014.12088.x.

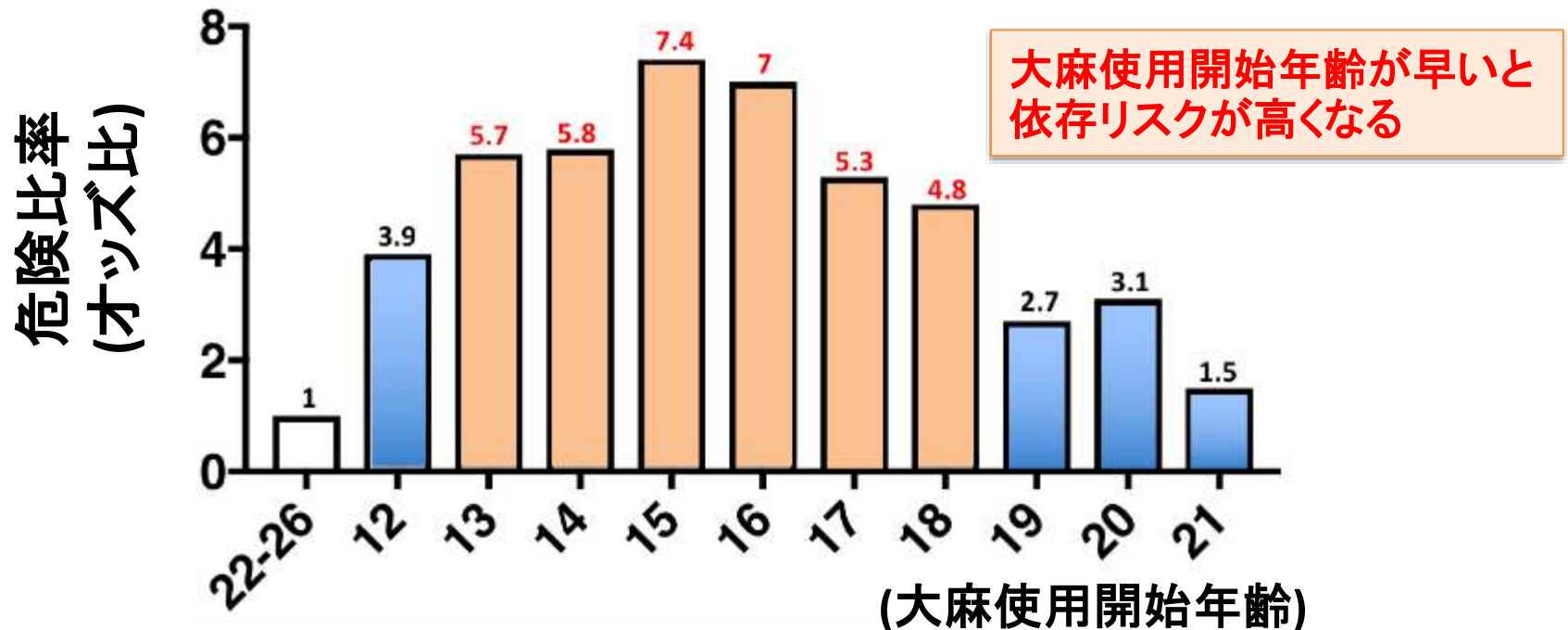
(5) Freeman TP, Winstock AR. Examining the profile of high-potency cannabis and its association with severity of cannabis dependence. *Psychol Med*. 2015 Nov;45(15):3181-3189. doi: 10.1017/S0033291715001178.

若年期の大麻使用は依存症のリスクを高める

大麻使用開始年齢の比較:

13~18歳に大麻使用を開始した人 vs. 成人になってから使用を開始した人

● 薬物依存症と診断されるリスクが約5~7倍高い



大麻使用開始年齢の比較(米国):

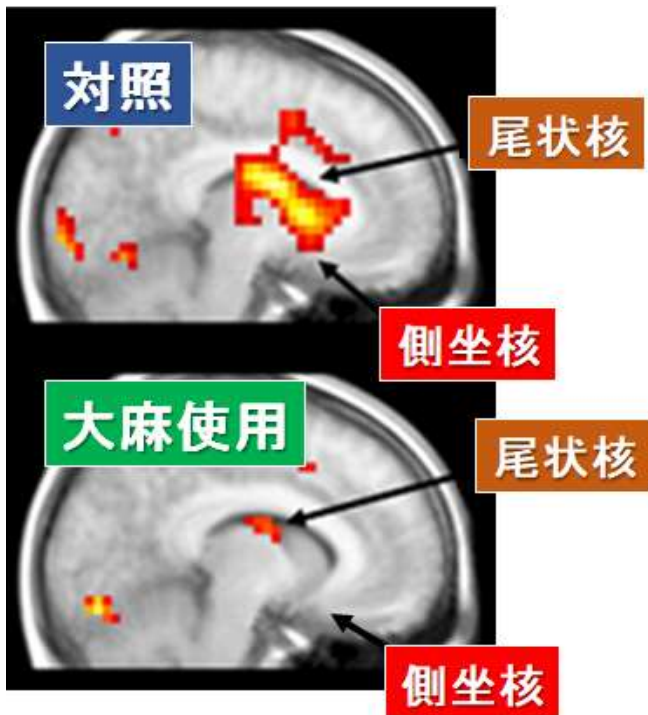
13~18歳に大麻使用を開始した人 vs. 成人(22-26歳)になってから使用を開始した人

● 薬物依存症(大麻使用障害=乱用、依存)と診断されるリスクが約5~7倍高い(オッズ比)

Ken C. Winters, Chih-Yuan S. Lee, Likelihood of developing an alcohol and cannabis use disorder during youth: Association with recent use and age. Drug and Alcohol Dependence. 92(1-3), 239 -247, (2008).

大麻使用により脳機能、脳構造が変化

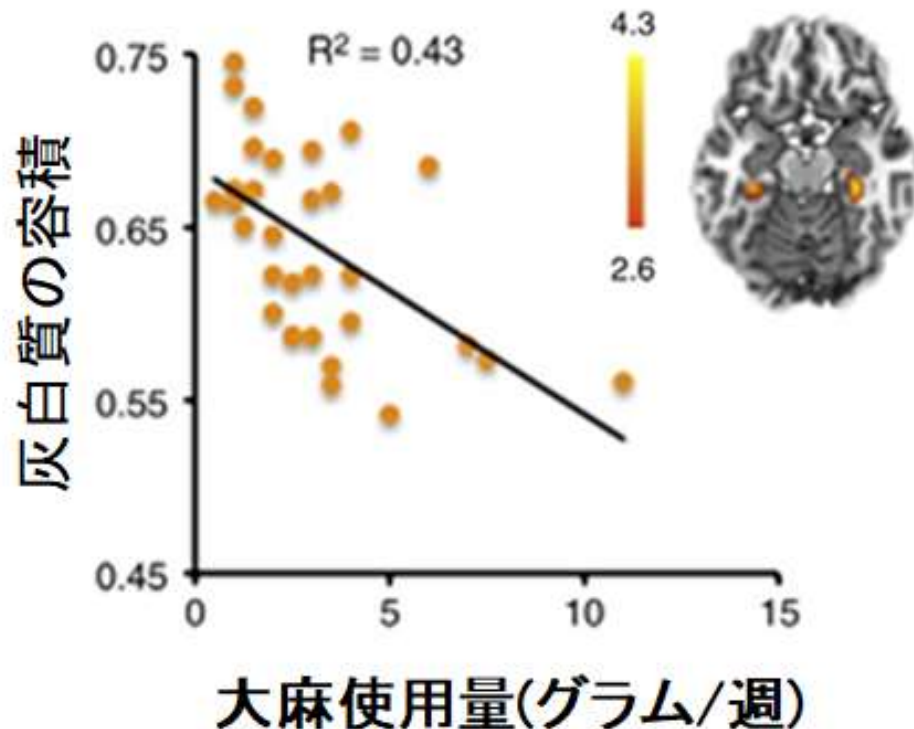
報酬の感受性



大麻使用:
過去1年間にジョイント: 平均614(150~1400)本

報酬の感受性が低下

海馬の容積



**海馬容量の低下
= 記憶、認知機能の低下**

van Hell, Hendrika H., et al. *European neuropsychopharmacology* 20.3 (2010): 153-163.

Cousijn, Janna, et al. *Neuroimage* 59.4 (2012): 3845-3851.

大麻の現状と課題

大麻事犯の人口10万人当たりの年代別検挙人員の推移をみると、最も多い年齢層は、**20歳代**、次いで**20歳未満**となっており、特にこの年齢層の**増加が顕著**。

若年期の大麻使用は依存症のリスクを高める

大麻使用開始年齢の比較：

13～18歳に大麻使用を開始した人 vs. 成人になってから使用を開始した人

● **薬物依存症と診断されるリスクが約5～7倍高い**

★大麻に対する有害性の認識

「ない(全くない、あまりない)」と回答した者が77.0%。覚醒剤に対する危険(有害)性の認識と比較すると、**著しく低くなっている**。

● **若年層への大麻有害性の周知が重要となる！**

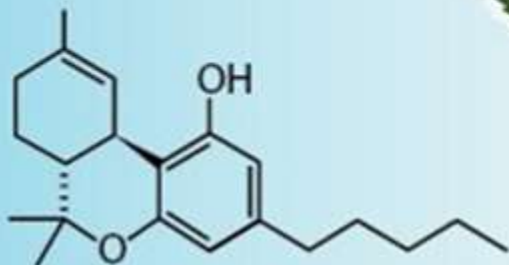
大麻含有成分の医療応用

- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)の作用
- カンナビジオール(CBD)の作用

大麻含有成分

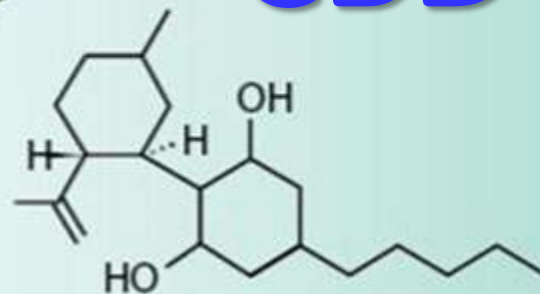
精神作用

THC



精神作用は
無し

CBD



- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)
- カンナビジオール(CBD)

大麻成分を含む医薬品

米国におけるCBD製剤: Epidiolex[®]の現状

CBD製剤	物質規制法	適応症
Epidiolex[®] (CBD=100mg/mL) (THCは0.1%以下)	規制対象と なっていない ¹⁾	ドラベ症候群 レノックス・ガストー症候群 結節性硬化症 (1歳以上)

National Institutes of HealthおよびGW Pharmaceuticalsが発表しているEpidiolex[®]使用上の注意点^{2,3)}

- 副作用には、肝障害、眠気、下痢、腹痛、食欲不振、歩行の乱れ、異常行動、感染症（肺炎・上気道感染症）など。
- 様々な処方薬と相互作用する可能性がある。

- 2021年1月末時点では、**Epidiolex[®]**のみがCBD製剤として承認されている⁴⁾。
- 大麻(0.3%以上THC含有)¹⁾およびその大麻抽出物(0.3%以上THC含有)^{1,5)}は **Schedule I** として規制対象となる。

1. https://www.deadiversion.usdoj.gov/21cfr/cfr/1308/1308_11.htm

2. <https://dailymed.nlm.nih.gov/dailymed/drugInfo.cfm?setid=8bf27097-4870-43fb-94f0-f3d0871d1eec#section-9>

3. <https://www.epidiolex.com/about-epidiolex>

4. <https://www.fda.gov/news-events/public-health-focus/fda-regulation-cannabis-and-cannabis-derived-products-including-cannabidiol-cbd>

5. Federal Register/Vol.85, No. 163/Friday, August 21, 2020/Rules and Regulations.

海外の状況：米国

大麻合法化とは？

米国では、大麻使用が認められている！

○使用ルールを設定

(個人の自由で無制限に使用できる状況
ではないことが重要！)

➤ 医療用大麻規制の法律

➤ 嗜好用大麻規制の法律

米国の州における医療用大麻規制のまとめ (39州+D.Cで共通項目)

共通ルール

- 州の住民であること
- 年齢制限: 基本的に18歳以上
- 資格制限: 医師の診断と登録審査が行われる
- 所持できる大麻の量に制限 = 州ごと異なる
- 使用場所: 基本的に自宅などプライベート空間
(治療目的でも学校での使用は禁止)
- 大麻影響下での自動車運転操作は禁止
: 違反行為は州ごとに罰則規定を設定

医療用大麻としての課題

- 大麻の適用症、所持量、摂取方法は州間で統一されてはいない(用法、用量)
- 大麻濃縮物などTHC濃度が高い製品は乱用に繋がる恐れがあり、販売方法など制度の見直しが起きている

米国の州における嗜好用大麻規制のまとめ (24州+D.Cで共通項目)

共通

- 年齢制限: 21歳以上
- 使用場所: 基本的に自宅などプライベート空間
- 栽培場所: 閉鎖された空間(野外は禁止)
- 大麻影響下での自動車運転操作は禁止
 - : 州からの持ち出しは禁止
 - : 違反行為には、厳しい罰則規定がある

未成年には使用
させない対策

現在の課題

- 大麻の所持量、栽培可能量は州間で統一されていない
- 大麻の嗜好品使用が認められていない州・国の購入者の問題
(大麻製品の購入・使用・持ち出しなど)

令和7年2月23日時点

コロラド州・ワシントン州・カリフォルニア州 における嗜好用大麻合法化後の社会的影響

大麻使用率

自動車事故

大麻関連犯罪

健康被害

組織犯罪

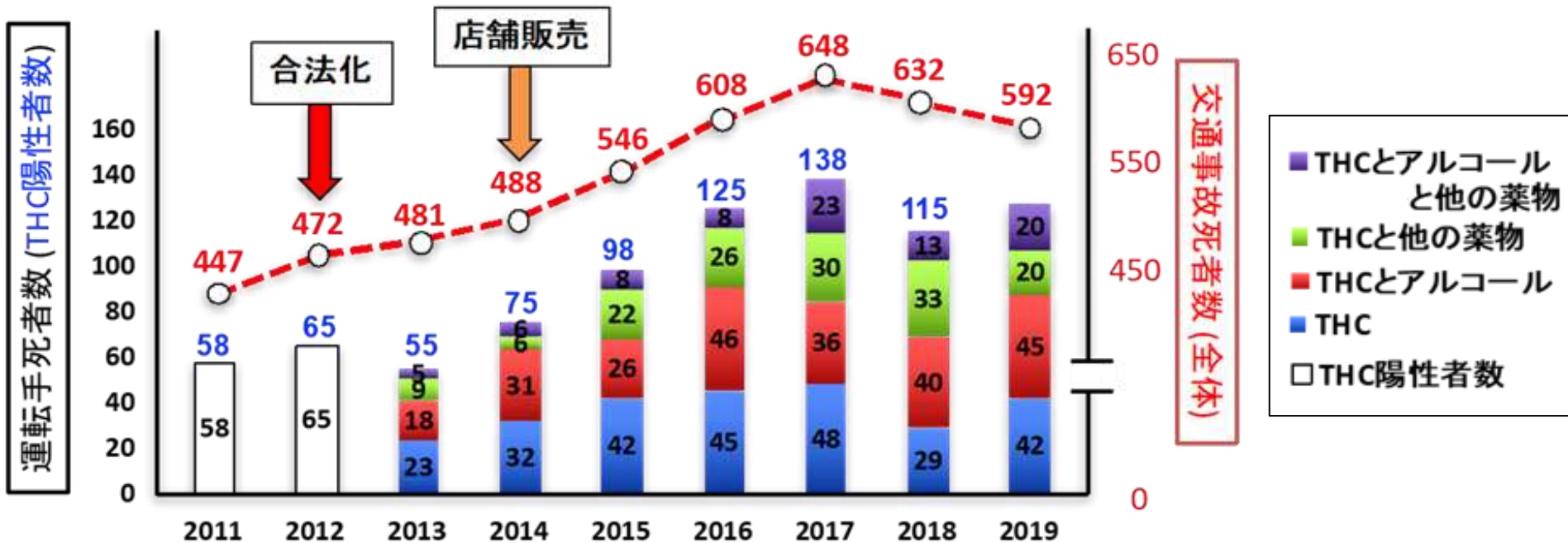
税収

Impacts of Marijuana Legalization in Colorado (2021年版、2023年版延期)、Washington poison center cannabis data reports及びCDPH report (California)より解析予定(公開される最新版についてまとめていく)。

コロラド州における大麻規制変更による社会状況

交通事故

運転手死亡者数(THC陽性者数)^{1,2)}



死亡した運転手からTHCが検出された人数:
2011年の58人から2018年は**115人**と約2.1倍に増加

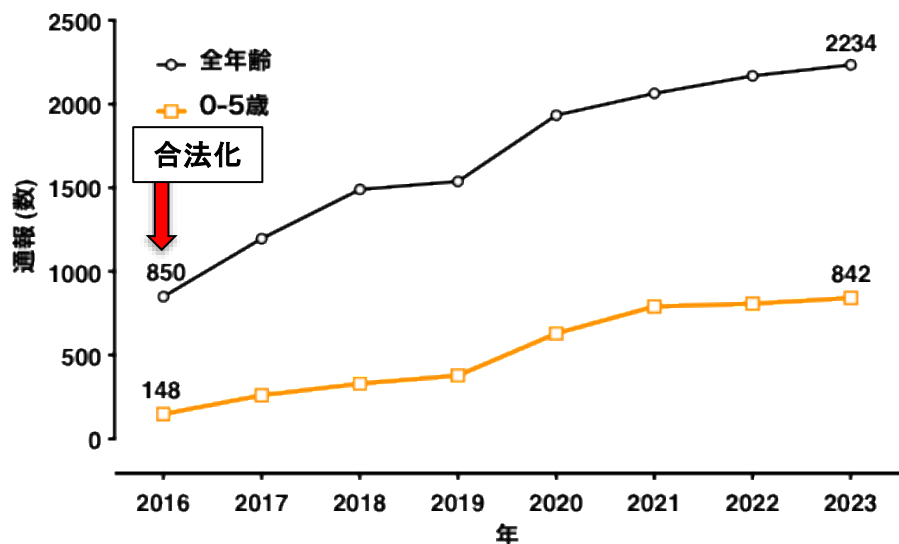
1. The legalization of Marijuana in Colorado: The impact, Volume 6, September 2019.

2. Impacts of Marijuana Legalization in Colorado, A Report Pursuant to Senate Bill 13-283, October 2018 and Rocky Mountain Poison and Drug Center.

救急

カリフォルニア州

大麻および関連製品摂取による通報¹⁾



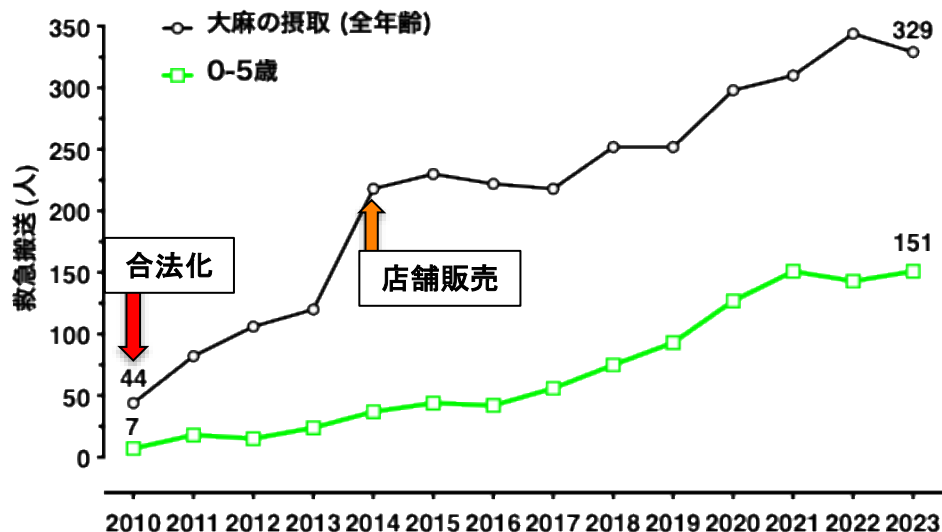
カリフォルニア州毒物管理センターへの大麻関連の電話件数

年	5歳以下	6歳から19歳	20歳以上
2016	144	256	439
2023	839	633	739

5歳以下の意図しない摂取が増加
144件(2016年)から839件(2023年)

コロラド州

大麻および関連製品摂取による救急搬送^{2,3)}



0-5歳の誤飲	2017	2023
大麻食品	35	89
大麻 (植物)	11	12
その他	9	46
合計	55	147

大麻の摂取が原因で救急搬送された0-5歳の割合は、2010年の7人から2023年は**151人**と約**21.5倍**に増加

- <https://www.cdph.ca.gov/Programs/CCDPHP/sapb/cannabis/Pages/Cannabis-Poison-Control-System-Calls-Dashboard.aspx>
- Impacts of Marijuana Legalization in Colorado, July 2021.
- <https://cannabishealthreport.colorado.gov/health-data/poison-center-data>

大麻使用の現状と問題点

(1) 大麻の規制

- 米国では大麻を嗜好品として使用している。年齢制限や使用場所制限など、規制に従って使用している。
未成年には使用させない対策が取られている。
- 医療用大麻は、適応症、**用法・用量**が統一されておらず、さらなる検討が必要である。
- 大麻使用による**交通事故**、誤飲事故の発生など公衆衛生上の問題が明らかになった。

(2) 大麻の危険性

- **大麻の危険性が増大**している = Δ^9 -THC (精神作用を示す成分) を多量に含む、大麻が流通している。こうした製品が広く流通することで、使用による健康被害の発生が危惧される。

最近の**薬物乱用問題**： 大麻・危険ドラッグの現状

大麻乱用問題

(1) 国内の大麻乱用状況

- 若年層への大麻乱用防止の重要性

(2) 大麻合法化とは？ 有害作用と医療応用

- Δ^9 -テトラヒドロカンナビノール(THC)と
カンナビジオール(CBD)

- 有害作用: ヒトにおける大麻(THC)の作用
- 医療応用: 米国におけるCBD製剤: Epidiolex[®]の現状
- 合法化とは?: 米国における合法化の実情と社会問題
- 大麻の危険性が増大?
- 大麻取締法再考の概要(改正大麻取締法)

大麻規制のあり方を再考する

●大麻取締法の再構築が必要となる理由

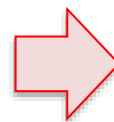
(1) 若年層での大麻乱用拡大
大麻取締法では、所持罪のみ。

麻薬及び向精神薬取締法、覚醒剤取締法では、所持罪、施用罪が適用される。



施用罪
導入

(2) 大麻成分を含む医薬品の登場
CBD製剤: Epidiolex[®] (医療用成分として重要)



医療使用
可能とする

大麻取締法:

現行の大麻取締法では、大麻及び大麻成分の医療用途は認められていない。

検討が必要＝大麻等の薬物対策のあり方検討会

大麻規制のあり方に関する大麻規制検討小委員会

厚生科学審議会医薬品医療機器制度部会
大麻規制検討小委員会

開催経緯

第1回 令和4年5月25日

議題1 大麻取締法等の施行状況と課題について

議題2 大麻関連障害患者の特徴と国内における治療・支援体制

(参考人:国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター

精神保健研究所 薬物依存研究部 部長 松本 俊彦 先生)

議題3 大麻取締法等の改正に向けた論点について①

第2回 令和4年6月29日

議題1 大麻の適正な利用の促進

(1) 大麻事犯の現状について

(2) カンナビノイドの化学的性質

(国立医薬品食品衛生研究所生薬部第3室長 花尻 瑠理 委員)

(3) 大麻由来製品の使用とTHCによる使用の立証について

議題2 適切な栽培及び管理の徹底

(1) 大麻栽培と精麻の加工

(参考人:日本大麻生産者連絡協議会会長 大森 由久 氏)

(2) 大麻草の栽培規制と栽培管理について

議題3 議題のまとめ

(1) 大麻取締法等の改正に向けた論点について②

第3回 令和4年7月29日

議題1 大麻草の適切な栽培及び管理の徹底について②

(1) 大麻種子の生産及び流通管理について

(参考人:国立大学法人 筑波大学 生命環境系 林 久喜 教授)

(参考人:一般社団法人 日本種苗協会 専務理事 福田 豊治 氏)

(2) 大麻草の栽培規制と大麻研究者免許について

議題2 大麻規制のあり方に関する議論の振り返りについて

(1) 第1回及び第2回の議論の振り返りについて

第4回 令和4年9月29日

議題 とりまとめ

構成員

- 太田 達也:慶應義塾大学法学部 教授
- 神村 裕子:公益社団法人日本医師会 常任理事
- ○合田 幸広:国立医薬品食品衛生研究所所長
- 小林 桜児:地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター 依存症診療科・依存症研究室・副院長
- 鈴木 勉:学校法人 湘南ふれあい学園 湘南医療大学 薬学部長
- 関野 祐子:東京大学大学院農学生命科学研究科 獣医学専攻特任研究員
- 富永 孝治:公益社団法人日本薬剤師会 常務理事
- 中島 真弓:東京都福祉保健局健康安全部薬務課長
- 橋爪 真一郎:日本製薬団体連合会(塩野義製薬株式会社 CSR 推進部)
- 花尻 瑠理:国立医薬品食品衛生研究所 生薬部第3室長
- 船田 正彦:学校法人湘南ふれあい学園 湘南医療大学 薬学部 教授

(計11名、○委員長、氏名五十音順)

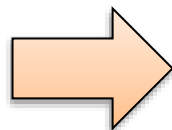
大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律について（令和5年12月6日成立・13日公布）

- **令和3年1月～6月**：「**大麻等の薬物対策のあり方検討会**」の開催。とりまとめにおいて、「大麻から製造された医薬品の施用規制の見直し」、「大麻草の部位規制からTHC等有害成分に着目した規制へ見直し」、「大麻の「施用」に対する罰則の導入」が示された。
- **令和4年4月～9月**：厚生科学審議会に「**大麻規制検討小委員会**」を設置。「大麻等の薬物対策のあり方検討会」のとりまとめを踏まえ、大麻取締法・麻薬及び向精神薬取締法の改正に向けた技術的な検討を開始。小委員会のとりまとめにおいて、下記改正の方向性が示された。
 - ① 医薬品の施用規制の見直しによる医療ニーズへの対応
 - ② 大麻施用罪の創設と有害成分(THC)に着目した成分規制の導入
 - ③ 大麻草の栽培及び管理の規制の見直し
 - ④ 製品の適切な利用と製品中のTHC濃度規制
- **令和5年1月12日**：医薬品医療機器制度部会にて、上記とりまとめが了承。
- **令和5年10月24日**：大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律案閣議決定・国会提出（**令和5年12月6日成立**）
- **令和5年12月13日**：大麻取締法及び麻薬及び向精神薬取締法の一部を改正する法律公布

【大麻取締法】

部位規制

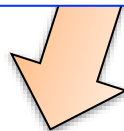
○ 大麻は葉や花穂など、特定の部位に対する規制がなされているが、麻薬の場合には、有害成分（THC）を含有するか否かで規制されているという違いがある。



成分規制

麻向法の有害成分規制へ移行 THCの残留限度値を設ける

○ 大麻及びその有害成分であるTHC（テトラヒドロカンナビノール）について、麻薬及び向精神薬取締法（以下「麻向法」という）における麻薬の一つとして位置付ける。



【麻薬及び向精神薬取締法】

大麻草から製造された医薬品

○ これにより、大麻草から製造された医薬品（THCを含有するもの）は、麻薬として、麻向法の免許制度の下で適正に管理、流通及び施用を可能とする。

施用罪

○ 大麻等を麻薬として位置付け、その不正な施用についても、他の規制薬物と同様に、麻向法の禁止規定及び罰則（施用罪）を適用（7年以下の拘禁刑）。※（大麻所持：5年以下の拘禁刑→7年以下の拘禁刑）。

栽培

栽培	目的	免許権者	有害成分の規制
第一種大麻草採取栽培者免許	大麻草の製品の原材料	都道府県知事 (有効期間3年)	基準値以下の大麻草の種子等を用いて栽培
第二種大麻草採取栽培者免許	医薬品の原料	厚生労働大臣 (有効期間1年)	医薬品原料のため基準値を超える栽培も可能

Δ^9 -THC の分析手法を例示

医薬監麻発1112第3号 令和6年11月 12日

大麻草由来製品等に含まれる Δ^9 -THCの残留限度値に係る分析法の例示について

液体クロマトグラフー三連四重極質量分析計(LC-MS/MS)又は液体クロマトグラフ四重極飛行時間型質量分析計(LC-QTOF MS)を用いた定量法

①油脂(常温で液体のもの)、粉末 10ppm

製品の例

- ・CBDオイル、ヘンプシードオイル、化粧オイル等【植物油】
- ・CBDパウダー、プロテイン等【粉末類】等
- ※ただし、ヘンプシードオイルやヘンプシードプロテインについては、CBD、CBN又はCBGを含有する製品のみ対象 等

②水溶液 0.1ppm

製品の例

- ・清涼飲料水、アルコール飲料、化粧水等【アルコール水溶液を含む水溶液】
- ・牛乳、植物性の飲料等【コロイド溶液】 等

③その他 1 ppm

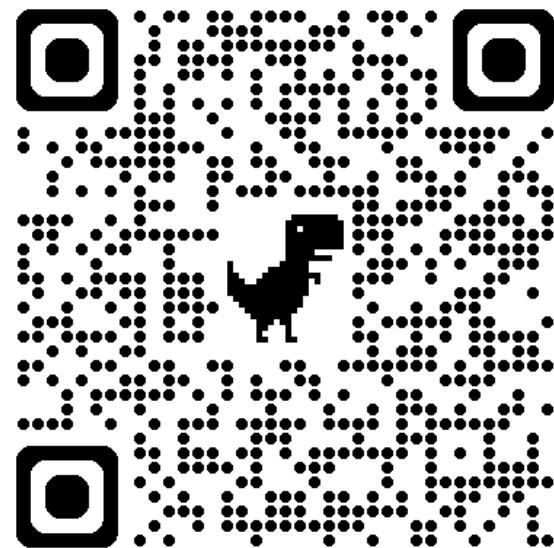
製品の例

- ・菓子類、錠剤、バター等【固形物全般】
- ・電子タバコ等【グリセリンと脂肪酸が結合した化合物、水を含まない有機溶媒製品】
- ・シャンプー、リンス、乳液、クリーム、マヨネーズ、バーム、ドレッシング等【粘性が高い、若しくはグリセリンと脂肪酸が結合した化合物の含有率が高い混合物】
- ・ゼリー等【ゲル状でグリセリンと脂肪酸が結合した加工物を含まない半固形物】 等

大麻取締法改正は 乱用拡大の抑止力となるか

JBpress公式

動画URL: <https://youtu.be/fMQmD-ZQLt4>



実はあまり知られていない大麻取締法改正、
12月の法改正で大麻規制はどのように変わるの
か？

**【Straight Talk】難病患者に対する医薬品とし
て期待を集める大麻草由来成分とは
2024.11.10（日）**

https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/84215#goog_rewarded

最近の**薬物乱用問題**： 大麻・危険ドラッグの現状

危険ドラッグ乱用問題

(1) 国内の危険ドラッグ乱用状況

- 若年層での危険ドラッグ乱用

(2) 最近の危険ドラッグ問題

- 大麻グミとは？本質は危険ドラッグ問題である！

- LSDの作用

- 電子タバコについて

危険ドラッグの流通例

パウダー系



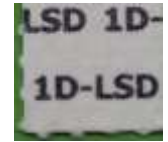
ハーブ(植物)系



錠剤・カプセル



紙片(ブロッター)



リキッド系



カートリッジ

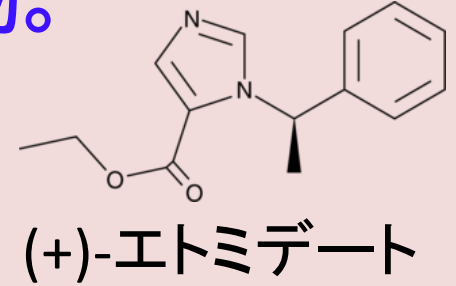


危険ドラッグ
の原末

新規精神活性物質
New psychoactive
substances (NPS)

「危険ドラッグ」とは？

- 「危険ドラッグ」は、新しく合成された薬物。
- 流通時には未規制である場合が多い。
- 中枢作用(多幸感、幻覚など)を有する。
= 麻薬や覚醒剤と類似の作用を示す。



麻薬

ヘロイン
コカイン

大麻(THC)

覚醒剤

アンフェタミン
メタンフェタミン

毒物
劇物

指定薬物

アルコール
たばこ

危険ドラッグとは何か？

販売側の戦略（合法とは）



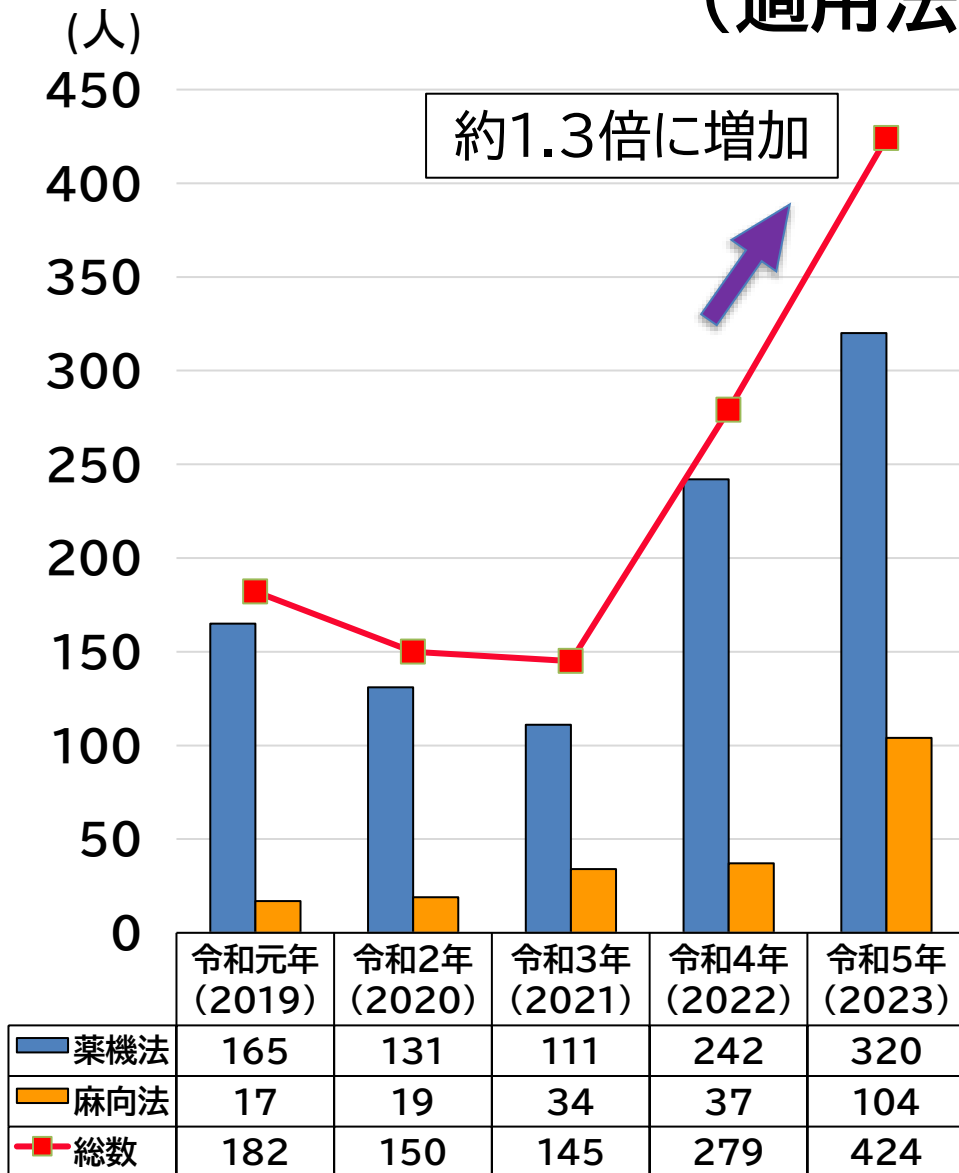
「規制されている成分は含みません。」

「違法ではない」=「合法」:偽装!

●「合法」とは法律で安全性が保障されている

販売側のイメージ戦略に
だまされない!

危険ドラッグに係る犯罪の検挙人員の推移 (適用法令別)



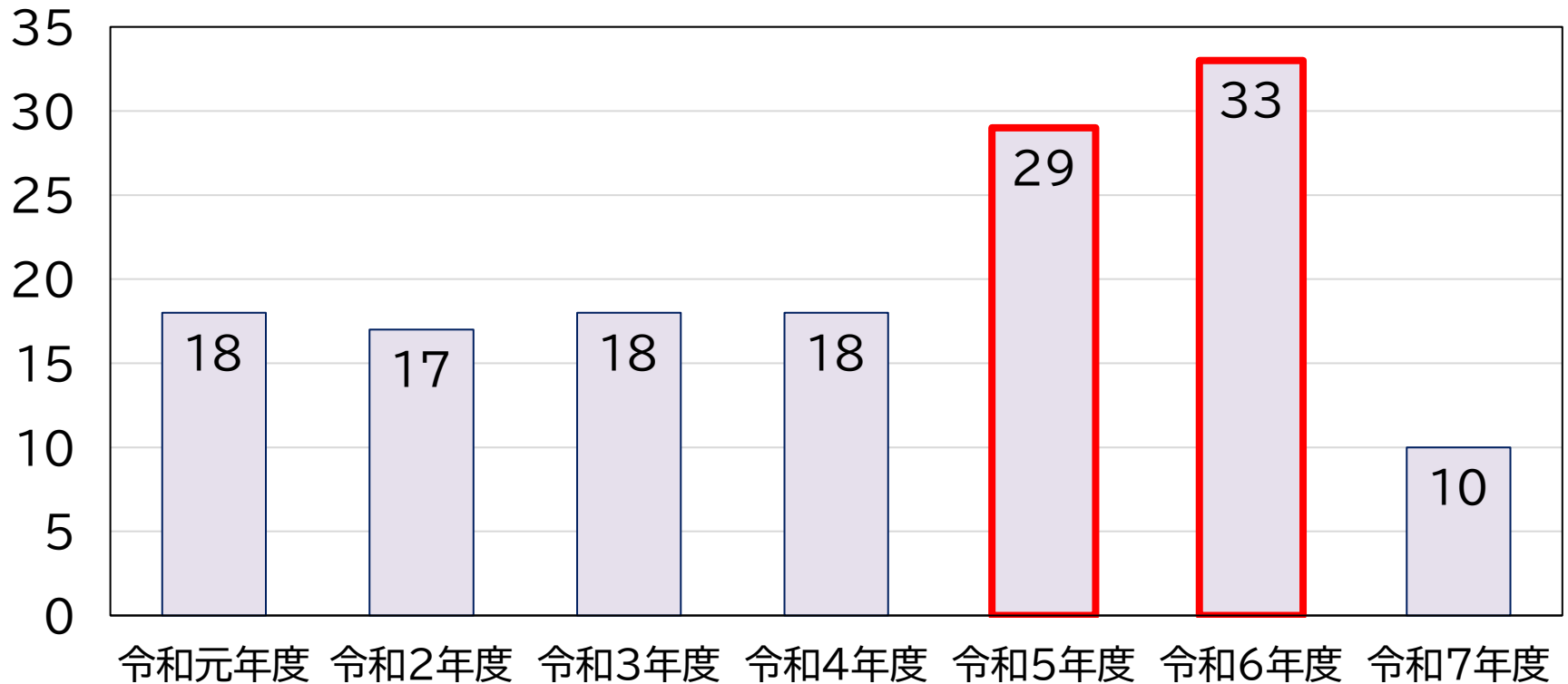
危険ドラッグ乱用者の 検挙人員

令和5年における**危険ドラッグ乱用者**の検挙人員は、395人である。

(危険ドラッグに係る犯罪の検挙人員のうち、危険ドラッグの販売等により検挙された供給者側の検挙人員を除いたものをいう。)

●年齢層別では、**20歳代(207人、52.4%)**が最も多かった。

指定薬物の数の推移



令和5～6年度
包括指定を実施

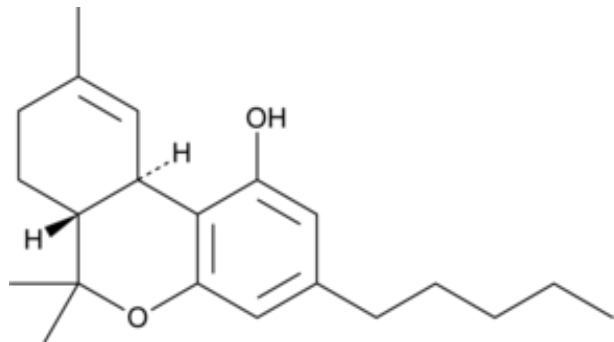
危険ドラッグとして流通する新規薬物
中枢神経作用発現の蓋然性＝指定薬物

令和7年12月末時点

「大麻グミ」

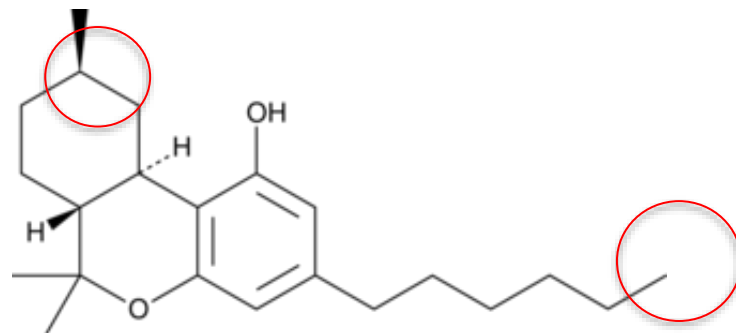
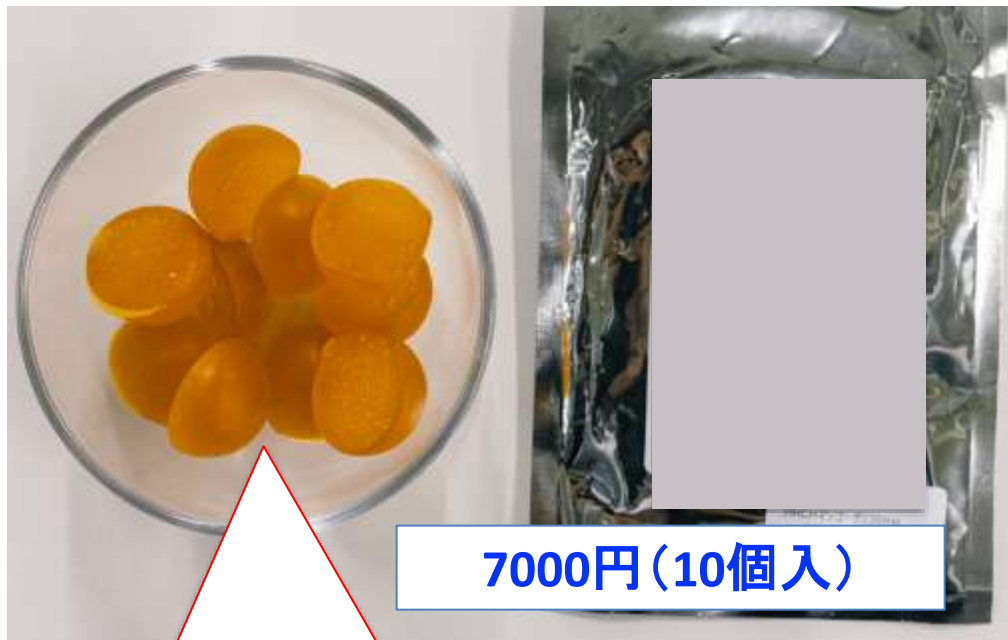
大麻のような成分が含まれた可能性のあるグミを食べた人が体調不良。

東京都内では11月に入り、祭りや電車内でグミを食べた人が体調不良を訴える騒動が3件あり、計11人が救急搬送された。



Δ9-THC (麻薬)
Δ9-Tetrahydrocannabinol

危険ドラッグ問題



HHCH (未規制→12・2規制)
9(R)-Hexahydrocannabinol

HHCH:合成カンナビノイド (半合成カンナビノイド)

●大麻の成分THCの構造に似せて作られた新しい合成化合物

流通形態:グミ、クッキー、カプセル、電子タバコのリキッドなどの商品形態で販売

HHCHによる健康被害と危険性

健康被害:めまい、吐き気、嘔吐、手のしびれ、けいれん。

精神作用:THCに類似した精神作用。

幻覚、幻聴、錯乱、意識混濁、依存に陥る危険性がある。

救急搬送事例

HHCHを含む商品を摂取した後の救急搬送事例が複数報告。

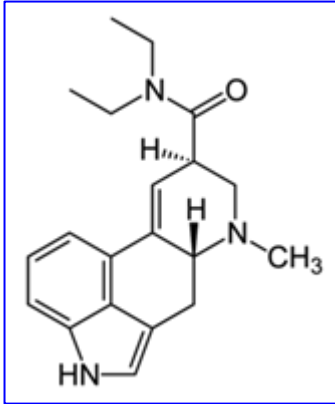
グミ摂取後に体調不良を訴え、救急搬送された事例が複数発生。

指定薬物:2023年12月2日から「指定薬物」に指定。医療等の用途以外での製造、輸入、販売、所持、使用等が禁止。

2022年3月17日:「THCP」「HHC」
2023年3月20日:「THCO」「HHCO」
2023年8月 4日:「THCH」
2023年9月10日:「THCV」「THCB」「THCjd」
を指定薬物として指定

LSD

リゼルギン酸ジエチルアミド
(lysergic acid diethylamide)



LSDの作用:LSDは、経口摂取後30分から1時間で作用が現れ、4時間から10時間程度持続します。

身体への作用

- 吐き気と嘔吐、瞳孔の拡大
- 体温の上昇または下降
- 発汗または悪寒
- 食欲不振、不眠
- 協調運動障害

精神作用

- ❑ 妄想、幻視、幻聴
- ❑ 「音に触れる」「色が聞こえる」といった異常な感覚(共感覚)
- ❑ 時間の感覚の欠如、空間の感覚のゆがみ
- ❑ 多幸感、恐怖感、パニック発作、判断力の低下

LSDの健康被害

- ❑ LSDの乱用は、身体的・精神的に深刻な健康被害をもたらす。
- ❑ 幻覚薬の作用は個人差が大きいため、その影響は予測困難で、精神的な影響と判断力の低下が事故につながるため危険である。
- 精神病症状が薬物の影響が消えてからも長く続くことがある。
- 既存の精神疾患が顕在化する可能性もある。
- 幻覚剤持続性知覚障害(HPPD)を経験することがある。
- 幻覚剤による精神的依存が生じることがある。

ゾンビたばこ

電子タバコ

カートリッジに
エトミデートが含まれる。



ボックス型

ペン型



タンク

コイル

バッテリー



エトミデート

「ゾンビたばこ」は、**電子タバコのリキッド**に**エトミデート**という国内未承認の麻酔薬成分が含まれた危険ドラッグの俗称です。使用すると意識障害や手足のけいれん、泥酔状態になり、まるでゾンビのようになることからこの名前が広まりました。

●エトミデート使用の危険性

健康被害:

めまいや筋肉の硬直。けいれん発現。

意識障害: 意識がぼんやりしたり、意識を失ったりする。

身体への影響: 手足のけいれん、震え、全身の硬直など。

副腎機能障害などの可能性(服腎不全: 疲れ、倦怠感、精神症状)。

依存性: 高揚感を示す。作用持続時間が短いため、短時間で繰り返し使用するため、依存に陥りやすい。

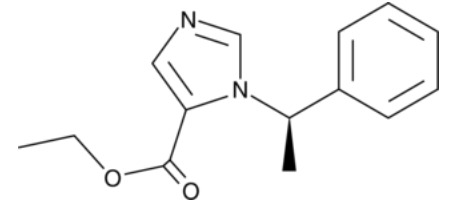
法規制: エトミデートは指定薬物であり、2025年5月16日から所持や使用が禁止。

主な入手経路

SNS: フリマアプリやSNSでの取引。

対面販売: 観光地、繁華街。

仲間内: 仲間内での広がりも報告。



(+)-エトミデート

エトミデートの使用による症状や特徴

- 意識障害
- 足元のふらつき、転倒
- 筋肉のけいれん
- ゾンビのようにふらつき歩く
- 精神疾患

過剰摂取すれば呼吸が停止し死に至ることも

Govt warns teens about "Zombie Cigarettes" containing sedative drugs Thailand

MONDAY, FEBRUARY 24, 2025

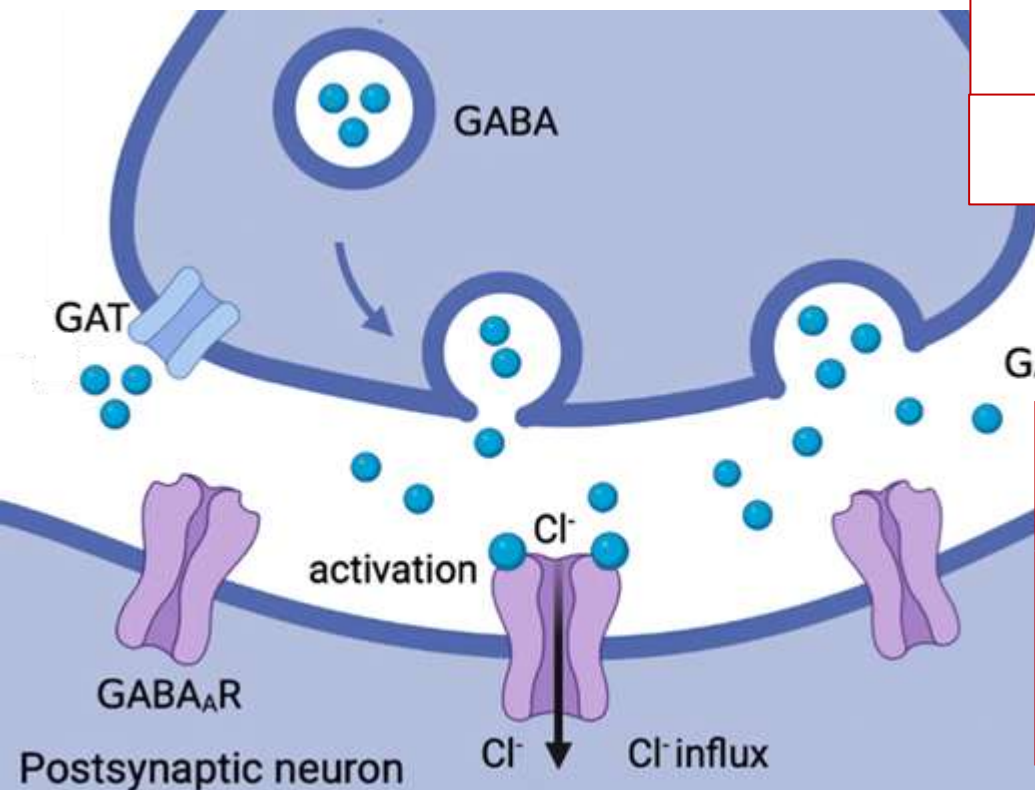
The government revealed that "Zombie Cigarettes," mixed with sedative drugs, were recently found spreading in the Thonglor entertainment area, with a warning to teenagers not to try them.

"Zombie Cigarettes" contain **Etomidate**, a sedative used in medical settings. When abused as a drug, Etomidate induces severe drowsiness, slows breathing, causes dangerously low blood pressure, nausea, confusion, and even unconsciousness—potentially leading to death.

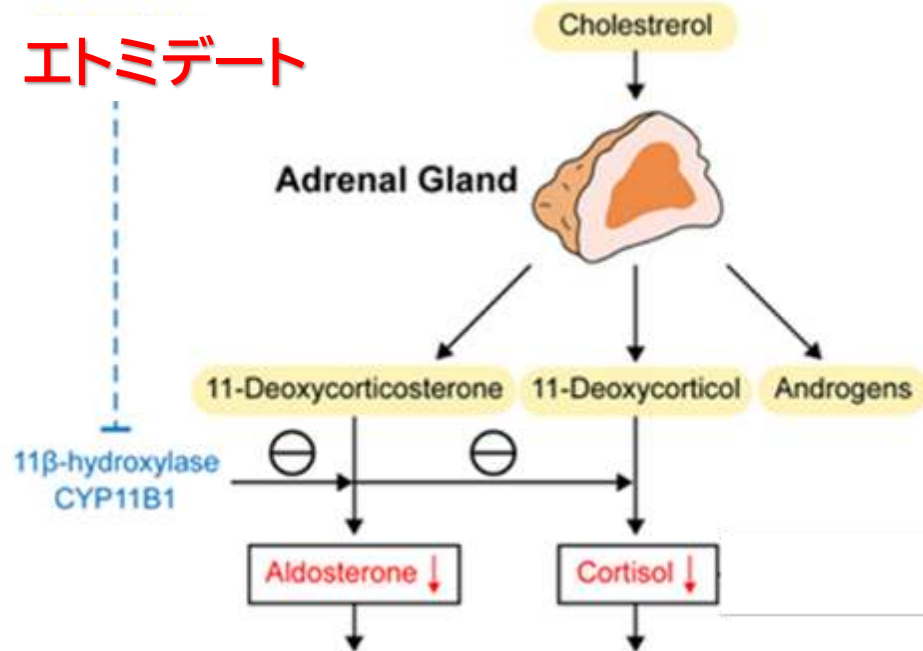
タイ政府は、鎮静剤を混ぜた「ゾンビタバコ」が最近トンローの歓楽街で蔓延している。若者は使用しないように警告した。



エトミデート： 神経興奮を抑制



エトミデート



副腎不全を引き起こす

$\alpha 1 \beta 2 \gamma 2$ 型GABA_A受容体：
エトミデートは選択的作用

エトミデートはGABA_A受容体を活性化(Cl⁻イオン流入を促進し過分極を誘発して神経活動を抑制する。

電子タバコ



大麻濃縮物

危険ドラッグ

- エトミデート
- 合成カンナビノイド
- LSD…

電子タバコの規制状況

ニコチン入り電子タバコの販売・輸入には薬機法による許可が必要。ニコチンを含まない電子タバコは規制の対象外。

デバイス販売方法や成分の規制は必要か？



まとめ

大麻・危険ドラッグの乱用問題

(1)現状と課題

- 10～20代を中心に若年層での乱用が深刻

(2)対策

- 大麻、危険ドラッグの有害作用周知
 - 薬物乱用防止教育の充実(誘われても断る)
 - SNSを介する情報周知
- 相談できる環境整備、地域連携
専門の医療機関、精神保健福祉センター、保健所など

(3)電子タバコの取り扱い

- 大麻濃縮物、危険ドラッグが吸引にて乱用されるケースが増加
- デバイスおよびカートリッジ成分規制などの対策も課題